

温故知新

(古代国家のあゆみ)

No. 20

☆ 新しい仏教

9世紀の初め 僧の**最澄**と**空海**は()にわたり、()
を学んで帰った。

◎ [] は、比叡山に()を建てて、
[] を広めた。

◎ [] は、高野山に()を建てて、
[] を広めた。

↓
↓

- ・政治と結びついていたそれまでの仏教を批判。
- ・人里離れた山林で厳しい修行を積み、祈りによって国を守り、人の災いを取り除くことができると説いた。

↓

その後、仏教界に大きな勢力を持つ。

最澄

伝教大師とも呼ばれる。天台宗の開祖。出身は近江国で豪族の子として生まれた。はじめ東大寺などで学んだが、奈良仏教に失望して比叡山にこもり修行した。ここで天台宗に活路を見出したという。804年に空海とともに唐に渡り、翌年帰国して比叡山延暦寺に入り、天台宗を開いた。

空海

弘法大師ともよばれる。真言宗の開祖。出身は讃岐国で豪族の子として生まれた。15歳で京に上り、官位をめざして儒学を学んだ。その後、仏教がすぐれているとして出家し、最澄らとともに唐へ渡った。唐では20年学ぶ予定であったが、2年で切り上げ、最澄の翌年帰国した。帰国後、唐で学んだ真言密教を伝えるために努力した。東寺を密教の中心道場としたほか、高野山に金剛峯寺を開いた。

仏教以外でも多彩な能力を発揮し、書などでも名を残している。(3筆の1人として数えられた。)最初の庶民学校である綜芸種智院を開き、庶民にも仏教や儒教を教えた。